

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスユーフォリア		
○保護者評価実施期間	R7年 1月14日		R7年 1月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R7年 1月14日		R7年 1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○日頃から家庭・学校・他関係機関と密に情報共有することで子どもの問題行動、または成長努力した事項をタイミングを逃すことなく支援ができています。 ○家庭・学校・他関係機関、それぞれと信頼関係が構築できている。	○学校の送迎時に担任との引き継ぎを綿密に行っている。またそのことを事業所での支援に活かすことはもちろん、自宅への送迎時に保護者へ伝え、しっかり情報共有するよう心がけている。 ○連絡帳やメールを通して、保護者からの相談事を聞き取り、悩みに寄り添い、適切な助言を行うよう心がけている。	○事業所では全く問題のない子どもが、学校では問題行動を繰り返す例がいくつかあり、担任から相談を受けることも多かった。授業参観を行ったり、担任の想いを送迎時に保護者へ伝えたりしたところ、一定の改善がみられたため、今後も必要に応じて実施していきたい。
2	○五領域に沿った内容を考慮しながら、ワンパターンにならないよう多彩な活動を計画し、その充実を図っている。 ○室内外における体験活動を多く取り入れ、子どもの経験値を増やすよう取り組んでいる。子どもたちも日々の活動を楽しみにしている様子が伺える。	○子どもが苦手とする学習に近い活動も、自ら道具を作らせたり、ゲーム的内容を取り入れることにより、楽しんで意欲的に活動に参加できるよう工夫している。 ○自然領域にも関心を持ってもらうため、事業所内で昆虫を飼い、子どもたちに触れさせ、観察・世話をさせている。 ○トランポリンや体幹運動等、体力作りに取り組んでいる。	○ふれあい館での講座受講や他事業所との交流を行ったところ、子どもたちも世界が広がり、新たな一面もみられた。これからも参加の機会を作り、積極的に取り入れていきたい。
3	○保育士、教師、心理師等の資格者で、実際の実務経験がある職員で構成されている。それぞれの経験から、子どもたちへ安定した支援を行えている。子ども、保護者からも信頼を得ていると感じている。	○それぞれの職員がこれまでの経験を活かし、子どものわずかな変化も見逃さず支援に携わるよう努力している。 ○経験があるからといっても個人の独自の判断でかぬよう、報連相を徹底している。学校や保護者からの連絡・相談も全職員で情報を共有し、共通理解のもと支援に取り組むよう心がけている。	○日々の活動の中でも機を逃さず、それぞれの支援に対して情報共有・意見交換していきたい。 ○職員研修等を積極的に行い、現状に甘んじることなく研鑽を積んでいきたい。今後も子どもや家族にあたたかく寄り添うことを志し、その支援の向上を図っていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○HP(ホームページ)・インスタ等、SNSによる情報発信が不足している。毎月、事業所から通信(活動予定表含む)を紙で発行し情報の発信をしているが、目を通していない家庭もあり、周知されていない部分もある。	○子ども一人一人や各家庭に対しての情報共有・発信はできているが事業所として社会に対しての発信を行えていない。保護者もいつでも気軽に見られるSNSの利用の必要性は痛感しているが、現状それを十分に行える職員が不足している。	○研修を積み、インスタ等、積極的に発信していきたい。 ○自分たちで技術力が及ばない場合は、外部への委託も考慮する。 ○SNSの発信については、プライバシーの徹底を第一義とし、保護者の要望をしっかりと聞き取る。
2	○事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等の策定について、保護者に対しての周知が足りないと痛感した。	○各指針やマニュアルについて契約時にお伝えしているが、災害時や緊急時の対応については定期的に行う避難訓練や日常的な活動の中に落とし込んでいるため、契約後に各指針やマニュアル自体について改めて保護者への周知を行う事はなかった。	○定期的な訓練の際に、お便り等で毎回保護者へ周知する。 ○定期的な面談の際にも、各指針やマニュアルについて確認していただく。
3			